

「別府の鉄輪（かんわ）温泉は一遍上人が開いたとされる湯治場の一つで……。流ちょうな英語の説明を外国人客がうなずきながら聞き入る。ガイドは米国生まれのゴンザレス・ベレナルドさん（31）。普段は地元のお宿ホテルで働くが、毎月第三日曜は外国人向けの温泉ガイドに変身。市民らでつくるボランティア団体の派遣で希望者を観光案内する。

バブル経済の崩壊後、別府を訪れる社員旅行の団体客は急減した。生き残りをめざし、ホテルや

外国人が支える観光地 ③

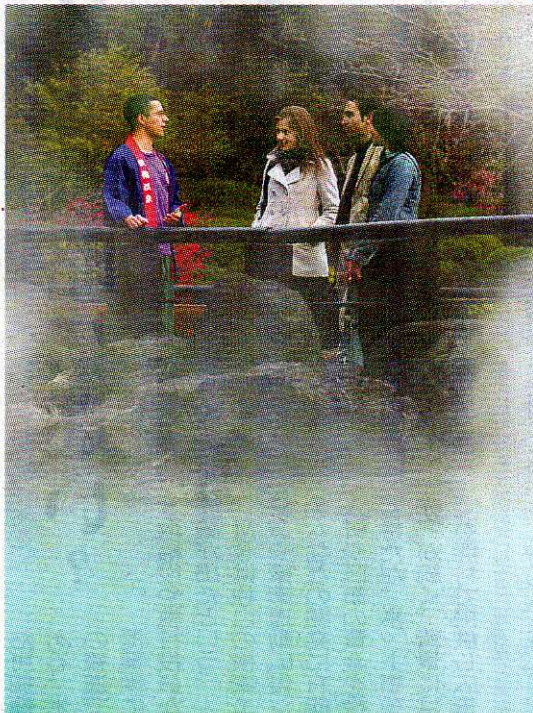
大分県別府市



旅館の経営者が中心となつて「外国人旅行者受入協議会」を旗揚げ。集客のため利用者の目線に立ったサービスの提供に知恵を絞る。

例えば、市内二十七の宿泊施設では韓国ウォン

湯の町案内 流れる英語



外国人ガイド④が留学生に英語で温泉を案内（大分県別府市）

や中国元を日本円に直接両替できる。以前は両替手数料の二重払いを強いられていた。同協会の粘り強い説得に金人との、〇一年の約二倍に膨らんだ。

融機側も折れた。こう、ゴンザレスさんはこの願いだ。

日、観光政策に関心があるという地元の立命館アジア太平洋大学の留学生を温泉施設に案内。「海地獄」と名付けられたマリンブルーの池から湯気が勢いよく噴き出す。

リトアニア出身の女子学生（19）は「みんなと温泉に入るのはちょっと恥ずかしかったけれど別府が大好きになった」とはにかむ。

案内した外国人が「湯煙の町の大使」となつて別府を世界各国でPRしてほしい。ゴンザレスさんと地元の人たちの